

〈祈りのために〉

「キリスト・イエスの僕、神の福音のために選び出され、召されて使徒となったパウロから」
(ローマの信徒への手紙 1章1節)

「すべて国民は、個人として尊重される」(日本国憲法第十三条)。

改憲の動きがいよいよ鮮明になってきた。現政権が目ざそうとしている改正草案(自由民主党「日本国憲法改正草案」)を読んでもらえば、戦後70年近くに及ぶ国家の枠組みが大きく変えられようとしていることは明らかだ。前文や天皇条項からはじまり、安全保障をめぐる第九条の問題、わたしたちに関係する信教の自由の後退、そして、新たに挿入されようとしている「緊急事態条項」などなど。その中でも、十三条が改変されることに危惧を抱く憲法学者は多い(ちなみに、改正条文は「全て国民は、人として尊重される」)。《個人》この分かれたれざる存在。他のなにものからも影響を受けず、かけがえのない一回限りの生を生きる自由。これが保障される時、人格は成立し近代国家の形成へと向かう。それが根底から改(壊)変されようとしているのが現下の事態だといえよう。わたしたちは、その中で、どのような抵抗の主体たりうるのか。

新約聖書に燦然とその名を留めているパウロ。《遅れてきた使徒》(Iコリント 15:8-9)、《非主流派》《圧倒的少数者》(ガラテヤ 1:1) これがかれの現実である。しかも、その名たるや、大きなものを意味する「サ(S)ウロ」(サウル王!)から、小さく取るに足りないものを意味する「パ(P)ウロ」への子音一字の変更をメシア的召命として受け取ることをよしとするその決断(アガンベン)。「パウロとはもっとも小さなもののことである」(アウグスティヌス)。じじつ、かれの書簡が認知されるようになったのは四世紀になってからだという(トロクメ)。ここに、世界に対峙して生き抜く一個の《福音的人格》の生きた姿を見る。

キリスト・イエスの僕、神の福音のために選び出されてこの世界へとよびだされた最も小さな存在パウロ。しかし、何かからも分かれたることなく生きることを決断する福音的人格。そこに、わたしたちは、ながい年月の逆風に耐えて生き抜く抵抗の主体を見ることがゆるされる。そしてわたしたちもその戦列へと招かれる。

〈祈り〉

主よ、かけがえのない存在として生きることを許されたことを感謝します。この福音の豊かさがわたしたちと世界を支えますように。

(渡辺輝夫 夕張伝道所牧師 北海道中会ヤスクニ・社会問題委員)

[ヤスクニ問題と私]

「ヤスクニ通信」編集への提言

矢野政良（鶴見教会長老）

私は、いわゆる転勤族だったため母教会に継続的に出席し始めたのは1993年からでした。靖国神社法案の国会提出・廃案の状況は地方にいても承知していたものの、1993年以降「ヤスクニ通信」を継続的に読むようになって、その内容について当初から少々の違和感を覚えたので、日本キリスト教会が靖国神社問題に取り組み活動してきたこれまでの歴史を学びました。

大会が1967年「靖国神社に対する国家の保護に反対する声明」を出し、以後も継続して精力的にこのことについて、神学的面からの根拠を明白にして指導してこられたことがよく理解できました。これらのことは大変良く理解され全教会に浸透していったことが判ります。

私は1969年、国会上程の靖国神社法案第2条の「・・・靖国神社を宗教団体とする主旨の者と解釈してはならない。」について、実際に昇殿して、慰霊行事の実態を数回にわたって体験し確認しましたが、これを宗教行事でない、宗教団体と解釈しない、などと説明できるものでないと確信したものです。靖国神社の国営化については、その兆候があれば、それを確実に早期に潰すことは必要なことであり、そのための努力を欠かさないことが大切だと思います。

しかし、これまでの学びを通じて、私が感じた違和感は払拭されることはありません。何故か？ 「靖国神社問題」が神学的・信仰告白的に十分な根拠を示し、説明されて来ただけに、「ヤスクニ通信」に取り上げられている「安全保障関連法案」「現行憲法における天皇制」などの取り扱いについては、日本キリスト教会として十分に神学的・信仰告白的に詰めて、説明されているとは理解できないからです。紛争地において自衛官が死亡した時、靖国神社に一方的に合祀されることをもって、靖国神社国営化のきっかけを作ることを懸念することが記述されることがあります。この懸念は皆無ではないと思いますが、本質的な議論の仕方ではないと思うのです。「日本の安全保障はどうあるべきか」「現在の天皇制はどうあるべきか」について正面から取り組んで、学ばなければ説得力のある説明にはならないと思います。過去の大会において「戦争と平和に関する問題の明確化・・・建議案」が否決されたことがあった、その理由は不明とありましたが、こうしたことを日本キリスト教会が研究課題として取り上げて学びを蓄積することが必要だと思います。

毎年、靖国神社問題特別委員会の活動のため募金が行われています。「ヤスクニ通信」を多くの会員に読んでもらいたいものですが、現在、各教会・伝道所において、どれほどの会員に読まれているのか？の状況把握も何らかの方法で行うことも意味があることと思います。現行の編集の仕方が「ヤスクニ通信」を積極的に読む意欲を失わせている一面があることを知っておく必要があると思います。もっと自由に賛否両論が掲載され、紙面を通じて質疑応答がなされ、議論が盛んに行われることも良いのではないのでしょうか。

「ヤスクニ通信」の名称で発行されて25年、靖国神社問題に取り組みされてから50年にならんとする長い歴史のある働きが信仰的に正しく、継承されていくことを願っています。

[沖縄から]

[沖縄キリスト教協議会声明文]

内閣総理大臣 安倍晋三 様
防衛大臣 中谷 元 様
米国大統領 バラク・オバマ 様
四軍調整官 ローレンス・ニコルソン 様

元米兵による女性殺害に強く抗議します！

沖縄県警は5月19日、うるま市の会社員の若い女性（20）の遺体を発見し（4月29日午前2時ごろ行方不明）、元米兵の米軍基地で働く米軍属の容疑者（32）を死体遺棄容疑で逮捕しました。

またもや起こった米軍関係者による凶悪犯罪で、かけがえのない若い女性が強姦されて命が奪われました。ここまで“いのち”が軽く扱われているのを見ると、悲しくてたまりません。ご家族、友人、知人の方々のことを思うといたたまれなく思います。何度、このようなことを繰り返さなければならぬのでしょうか。私たちは怒りと悔しさが入り交じった衝撃を受けています。米軍基地が集中するために脅かされる、私たち沖縄住民の命と女性の人権。米兵や米軍属の犯罪におびえて暮らす日常さが戦後71年たっても続いていることは、あまりにも異常です。3月13日に、米兵による女性への人権を蹂躪する極めて悪質な性暴力事件が起きたばかりです。沖縄のこの事件の意味することを、あなた方はどれだけ感じ取っておられますか。

米軍人と軍属、その家族による刑法犯事件はここ数年、数十件に推移。去年は76件（82人）です。このうち沖縄は34件（42人）と、半分近くを占めています。沖縄の施政権が日本に返還された1972年以降、米軍関係者による刑法犯摘発は2015年待つ時点で5896件、5815人にのぼり、このうち女性暴行事件は、130件、148人となります。これらの数字を見る時、私たち沖縄住民は、常に暴力におびえつつ、日常を送らざるを得ない状況にあります。その根本には、余りにも沖縄に過重な米軍基地が集中しているために、住民の安全が脅かされ続けているのです。

私たちは「すべての米軍は沖縄から撤退すること」を求めます。新基地だけでなく全基地撤去を求めます。これ以上、軍事基地による犯罪や人権蹂躪を繰り返すことは決して許されないという私たち沖縄の憤りがあるからです。

以上のことから、私たちは、米兵による若い女性への殺害事件に強く抗議します。

2016年5月20日 沖縄キリスト教協議会議長 上原榮正

…「沖縄キリスト教協議会」は、日本基督教団、日本聖公会、日本バプテスト連盟、沖縄バプテスト連盟、日本キリスト改革派、カトリック(オブザーバー)等16の教団・教派・教会・団体が構成されている。日本キリスト教会も加わっており、現在、川越（沖縄伝道所）が書記。…

伊勢志摩サミットに参加される G7 首脳の方々に

日本によろしくお伝えくださいました。世界の重要な課題を話し合うため、リーダーたちが集まる会合が実に豊かなものになるよう祈ります。

さて日本国内の報道では、サミット来日の折に皆さまが伊勢神社に行くとのこと。日本の歴史や文化に触れていただくのは光栄なことですが、一点お願いと注意を促したくメッセージを送ります。伊勢神宮は天皇神話に基づく神社（宗教施設）であり、ここで各国首脳が礼拝行為をなさることは、この国に生きるキリスト者にとっては受け入れがたいことです。日本では、かつての国家神道体制への回帰の動きが強まっており、信教の自由が脅かされようとしています。そのような状況下で G7 の首脳が伊勢神宮に行くことは、このような状況を後押しすることに利用されかねません。

ぜひこの点をご理解くださり、伊勢神宮への参拝をなさらぬよう、お願い申し上げます。

2016 年 5 月 23 日

特定秘密保護法に反対する牧師の会

共同代表 朝岡 勝（日本同盟教団徳丸町キリスト教会牧師）

安海和宣（単立東京めぐみ教会牧師）

…特定秘密保護法に反対する牧師の会は、「秘密保護法」が成立した 2013 年 12 月 6 日に立ち上げ、70 近い教団教派と単立、ミニストリーの牧師・伝道者が参加し、574 人が賛同している。集団的自衛権行使容認閣議決定等「戦争する国」に危機意識をもって声をあげている。…

伊勢志摩サミットにおいて、各国要人を伊勢神宮に案内しないこと、参拝しないことを求める。

内閣総理大臣 安倍晋三 殿

三重県知事 鈴木英敬 殿

伊勢市長 鈴木健一 殿

日本同盟基督教団「教会と国家」委員会 委員長 柴田智悦

（概略）首相が、伊勢神宮を「日本の精神性に触れるには大変良い場所。リーダーに訪れていただき、荘厳で、凜とした空気を共有できれば良い」と発言したが、伊勢神宮は靖国神社と共に、国家神道の中心的施設として侵略戦争の精神的支柱であり、天皇の神格化・絶対化思想の拠り所とされたところでもある。そのような伊勢神宮を「日本の精神性」とみなすこと自体が、「思想及び良心の自由」（憲法第 19 条）を侵している。そればかりか、国の代表者と、地方公共団体の首長である貴殿らが各国首脳を出迎え、境内を案内されることは、憲法第 20 条の政教分離原則と憲法第 89 条に違反する。各国首脳は、訪問の形式をとると報道されているが、安倍首相らが参拝されること自体が政教分離原則に対する違反行為であるのみならず、再び国家神道を復権させる恐れを抱かせる。首脳らの中には、形式的とはいえ、同じ行動を促されているならば、憲法第 20 条に違反することになる。

私たちは、「神によらない権威はなく、存在している権威はすべて、神によって立てられたもの」（ローマ 13:1）であると信じています。その権威を与えられている貴殿らの、かつての日本が犯した祭政一致の誤った道をたどることになりかねないような行為は、厳に慎むべきです。

2016 年 5 月 24 日

737号ヤスクニ通信 2016年6月12日 発行 日本キリスト教会 靖国神社問題特別委員会 発行人 栗田英昭 編集 川越弘 印刷発行 篠塚予奈（東京告白教会） 〒157-0061 東京都世田谷区北鳥山 1-51-12 TEL&FAX03-3300-6529
--